

介護サービスの基盤整備に向けた 調査について

柏市高齢者支援課
令和2年10月22日

はじめに

- 第8期柏市高齢者いきいきプラン21では、2021年4月～2024年3月における介護サービスの整備数を定めます。
- 整備数を考える際は、既存事業者の実態を把握することが重要です。
- 今回は、既存事業者の実態調査を行ったため、その結果を報告します。

■調査対象サービス（介護保険法で整備数を規制できるサービス）

○施設系サービス

特別養護老人ホーム

介護老人保健施設

特定施設入居者生活介護

グループホーム

※介護医療院は、2019年8月1日に1施設開所したばかりでデータサンプル数が不十分なため未調査。今後は国が示しているデータ等をもとに整備数を検討。

○在宅系サービス

小規模多機能型居宅介護

看護小規模多機能型居宅介護

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

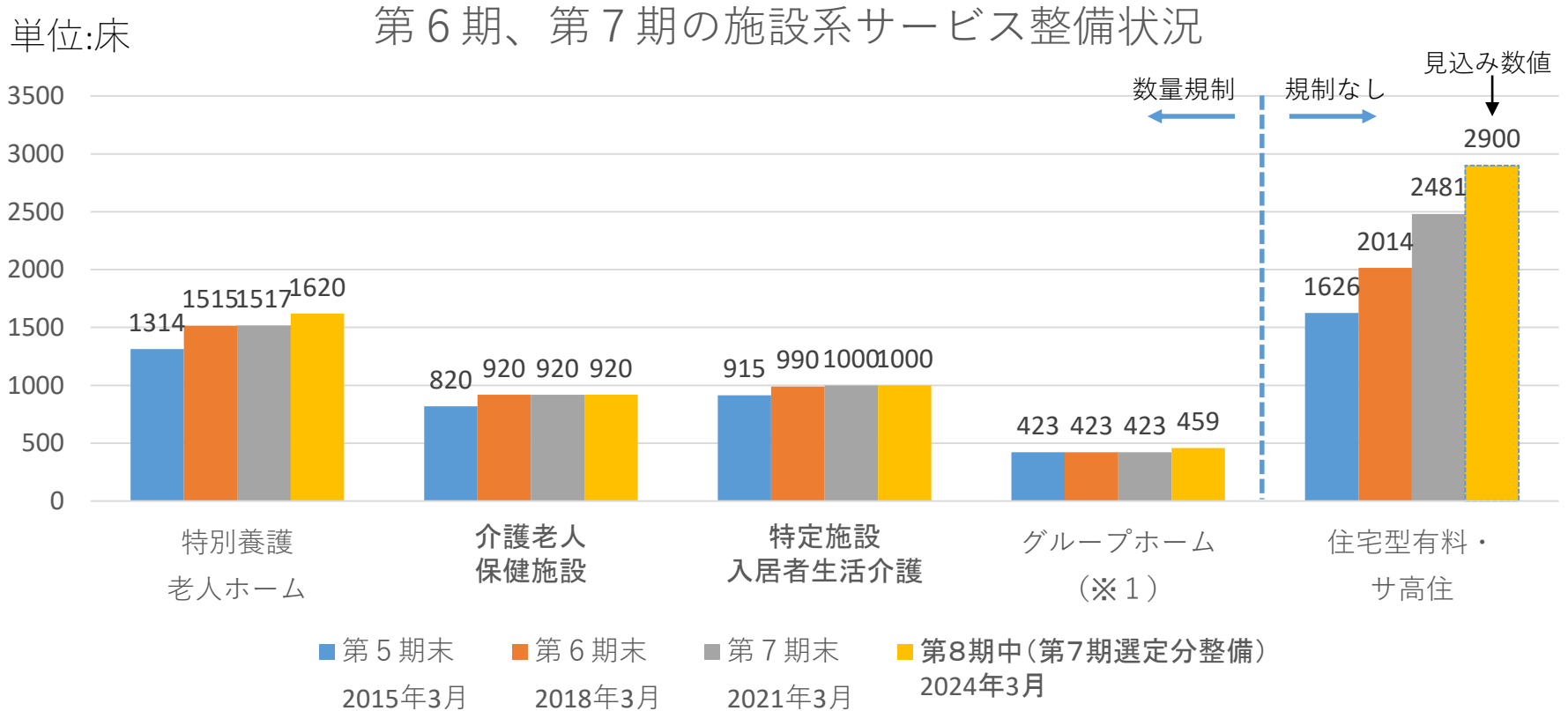
基本情報（施設、居住系サービス）

種類	対象者	サービス内容
特別養護老人ホーム (市内24施設1517人)	原則 要介護 3～5	<ul style="list-style-type: none"> ・常に介護が必要な方を対象にした施設で、日常生活上の介護や、健康管理などを行う。 ・定員29名以下の施設は、原則市民のみが利用できる地域密着型のサービス。 ・社会福祉法人が運営主体。
介護老人保健施設 (市内9施設920人)	要介護 1～5	病状が安定し、在宅復帰を目指している方を対象とした施設。医学的管理下での介護や機能訓練を行う。
介護医療院 (市内1施設19人)	要介護 1～5	医療ニーズが高く長期間療養が必要な方に対して、医学的管理のもと、日常生活の介護やリハビリテーションなどを行う。
特定施設入居者生活 介護 (市内10施設1000人)	要介護 1～5 要支援 1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・指定を受けた有料老人ホームなどで、日常生活上の介護や機能訓練を行う。 ・主に民間事業者が運営主体。
グループホーム (市内27施設423人)	要介護 1～5 要支援 2	認知症の高齢者が少人数で共同生活をしながら、日常生活の介護や機能訓練などを行う。

基本情報（在宅系サービス）

種類	対象者	サービス内容
小規模多機能型居宅介護 (市内9事業所、登録定員241人) ※2事業所休止中	要介護 1～5 要支援 1・2	通いを中心として、短期間の宿泊や家庭への訪問を組み合わせる複合的なサービスを行う。
看護小規模多機能型居宅介護 (市内1事業所、登録定員29人)	要介護 1～5	小規模多機能型居宅介護と訪問看護を組み合わせ、退院後の在宅生活への移行や看取り期の支援など、多様なサービスを行う。
定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (市内4事業所)	要介護 1～5	定期的な巡回訪問と緊急時等の随時訪問により、介護と看護両方のサービスを行う。

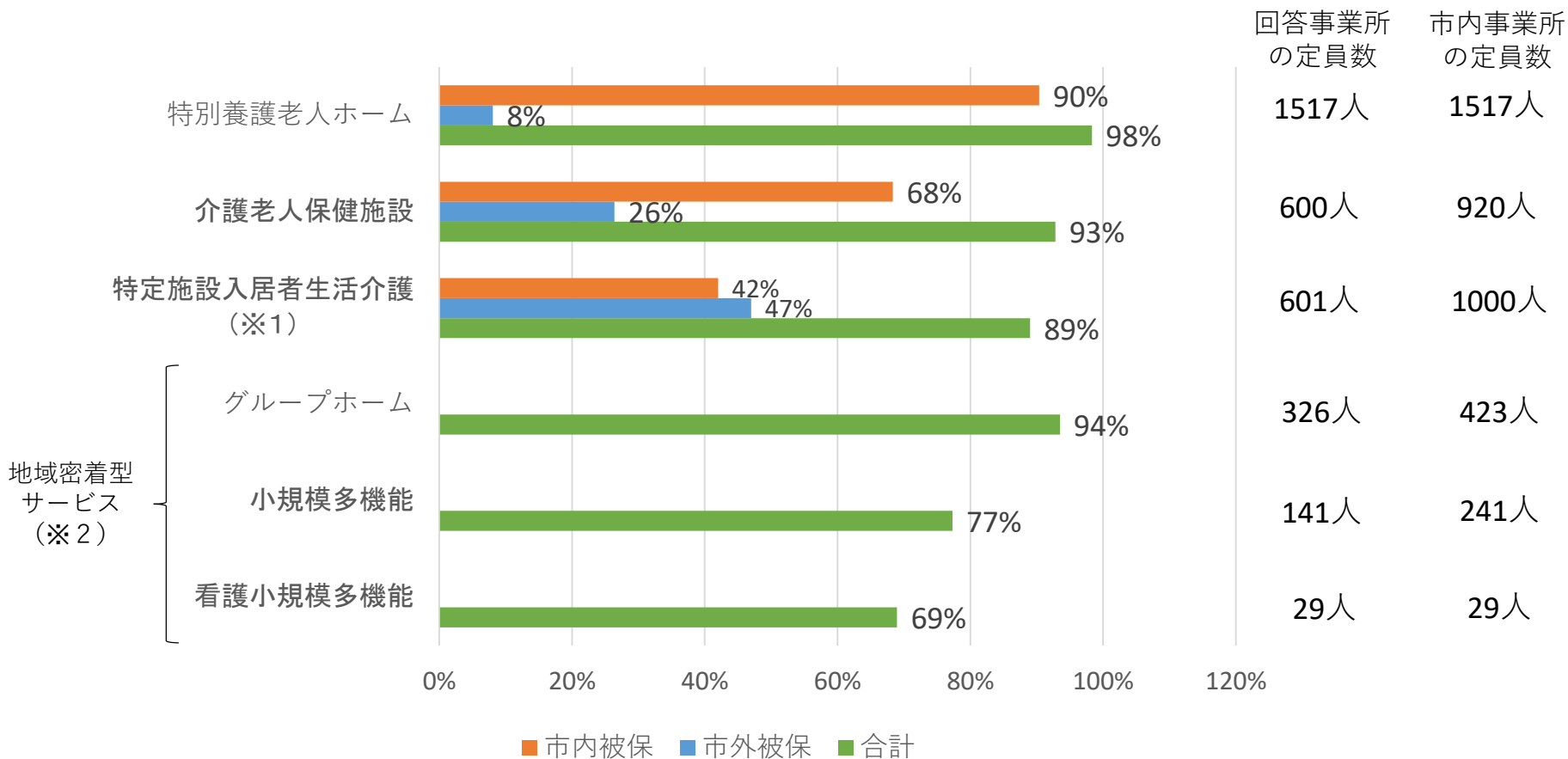
整備状況（施設系）



※1 = グループホームの「第8期中（第7期選定分整備）」36床分（459 - 423）については、現時点で整備事業者は決まっていないが、今後事業者を選定して増加することを見込んだ数値。

- ・第6期、第7期の間、住宅型有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅がおよそ800床と、突出して増加している。住宅型有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅は整備量の規制をすることができないため、今後も同じペースで増加が続けば、第8期末までにおよそ2900床分の整備が見込まれる。
- ・特別養護老人ホームは、第7期に選定した100床分が第8期中に整備される予定。

利用率



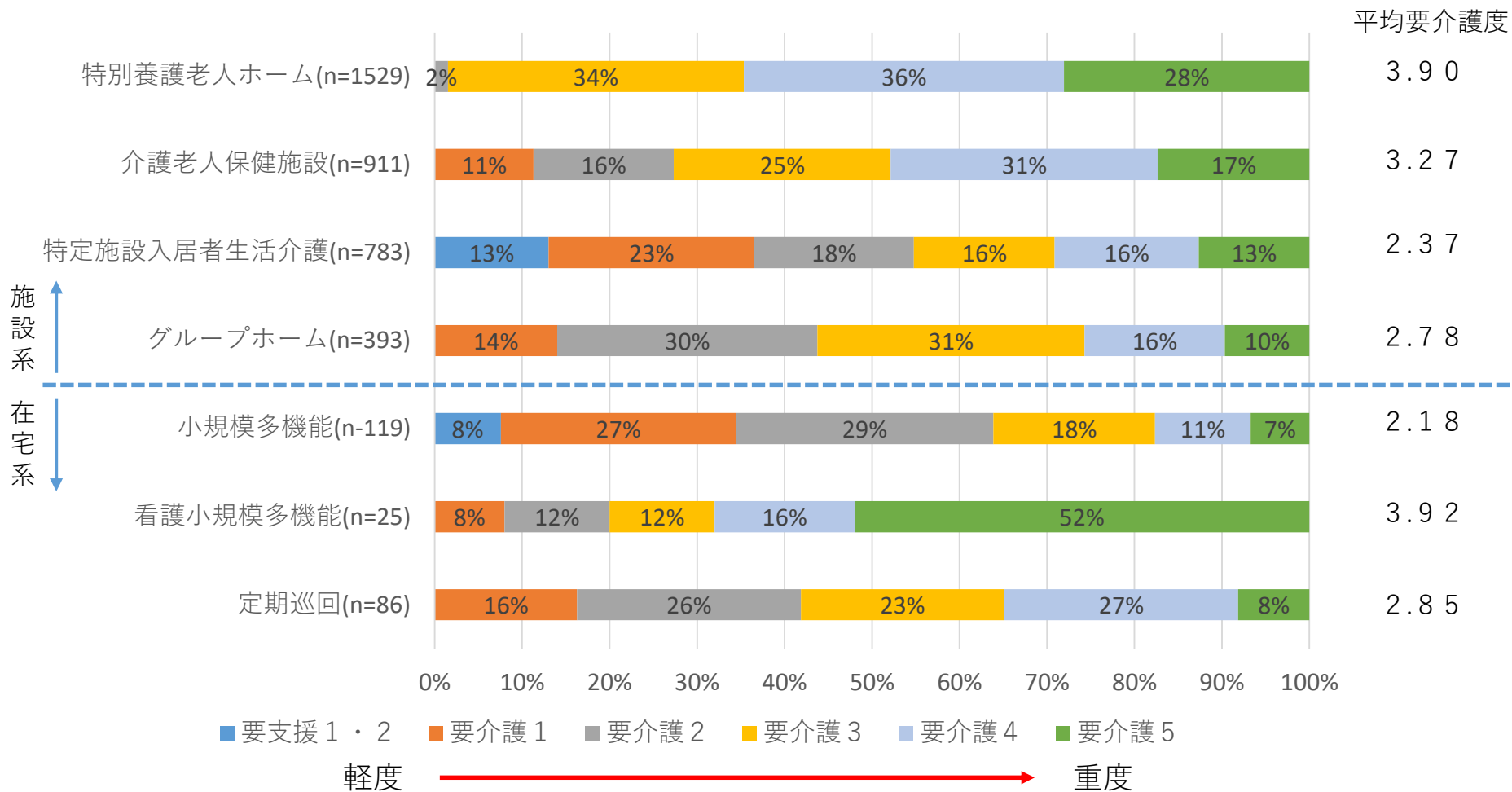
※1 = 特定施設入居者生活介護のうち、1施設（399床）は「極端な例」として除外（入居者の8割が自立～支援）

※2 = 地域密着型サービスは原則市民利用のため、合計値のみ集計。また、小規模多機能は休止中の2事業所を除外

（補足）定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、「定員数」がないため除外

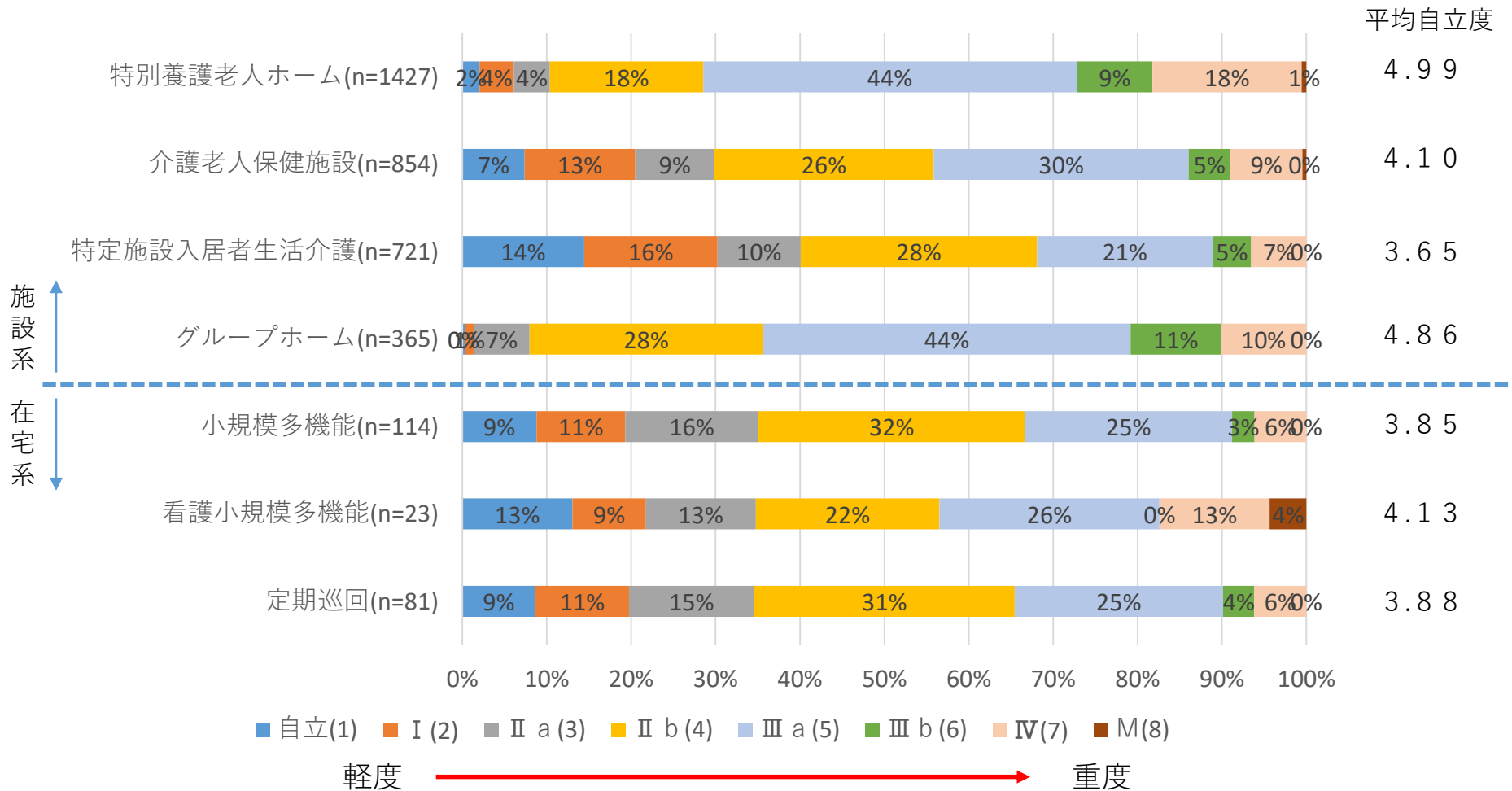
出典：特別養護老人ホーム入所者状況報告書（2020年10月1日時点）
 特定施設入居者生活介護入居者調査（2019年7月1日時点）
 事業者へのアンケート調査（2020年9月1日時点）

利用者の要介護度（柏市被保険者）



- ・ 特別養護老人ホームは原則要介護度3以上の方が利用できる施設のため、平均要介護度3.90と高い
- ・ 特定施設入居者生活介護は自立、要支援の方から利用できる施設のため、平均要介護度2.37と低い
- ・ 看護小規模多機能は医療ニーズの高い利用者を受け入れているため、平均要介護度3.92と高い

利用者の認知症自立度



- ・グループホームは認知症の方を対象としたサービスのため、認知症自立度が重い人が多い。
- ・特別養護老人ホームは要介護度の重度者が多いことに比例して、認知症自立度も重い人が多い。
- ・その他のサービスは、軽度者、重度者がバランスよく利用している。

新規入所申込数、退去者数（施設系）

1年間の新規入所申込者数と退去者数を調査し、どちらの数値が多いか比較。

新規入所申込者数 > 退去者数 = 今後も待機者が増加する可能性が高い
 新規入所申込者数 < 退去者数 = 待機者がすぐに増加する可能性は低い

サービス種類	新規入所申込者数		退去者数	今後の見込み
特別養護老人ホーム (24/24事業所回答)	653人	>	315人	待機者の増加が見込まれる
特定施設入居者生活介護 (6/10事業所回答)	114人	=	114人	すぐに待機者が増える見込みはない
グループホーム (22/27事業所回答)	95人	>	64人	待機者の微増が見込まれる

特別養護老人ホーム = 2019年1月1日～2019年12月31日 集計期間
 特定施設・グループホーム = 2019年4月1日～2020年3月31日 集計期間

(補足) 特定施設入居者生活介護とグループホームについては、市内全事業所から回答を得ておらず、また、1人の方が複数の施設に申し込んでいる場合は申し込んだすべての数を含めているため、実数ではないことに注意

ベッド回転率（介護老人保健施設）

- ・介護老人保健施設は在宅復帰を目的とした施設であり、在宅復帰率やベッド回転率が高いと介護報酬に加算される仕組み（その他加算要件あり）
- ・ベッド回転率の算定には、直近3カ月の新規入所者数と新規退所者数の数値が使用され、市内事業者（回答のあった6施設）の新規退所者数は以下のとおり。

サービス種類	直近3カ月の退所者数
介護老人保健施設(6/9事業所回答)	124人 <u>(1施設平均20.7人)</u>
退去者数を他の施設系と比較すると・・・	1年間の退去者数（前ページ引用）
特別養護老人ホーム(24/24事業所回答)	324人（1施設平均13.5人）
特定施設入居者生活介護(7/10事業所回答)	114人（1施設平均16.2人）
グループホーム(22/27事業所回答)	64人（1施設平均2.9人）

- ・他の施設系サービスの1年間退去者数の平均人数よりも、介護老人保健施設の直近3カ月間退去者数の平均人数の方が多い。このことから、他の施設系サービスと比較すると、介護老人保健施設のベッド回転率が高いことが分かる。

待機者（施設系）

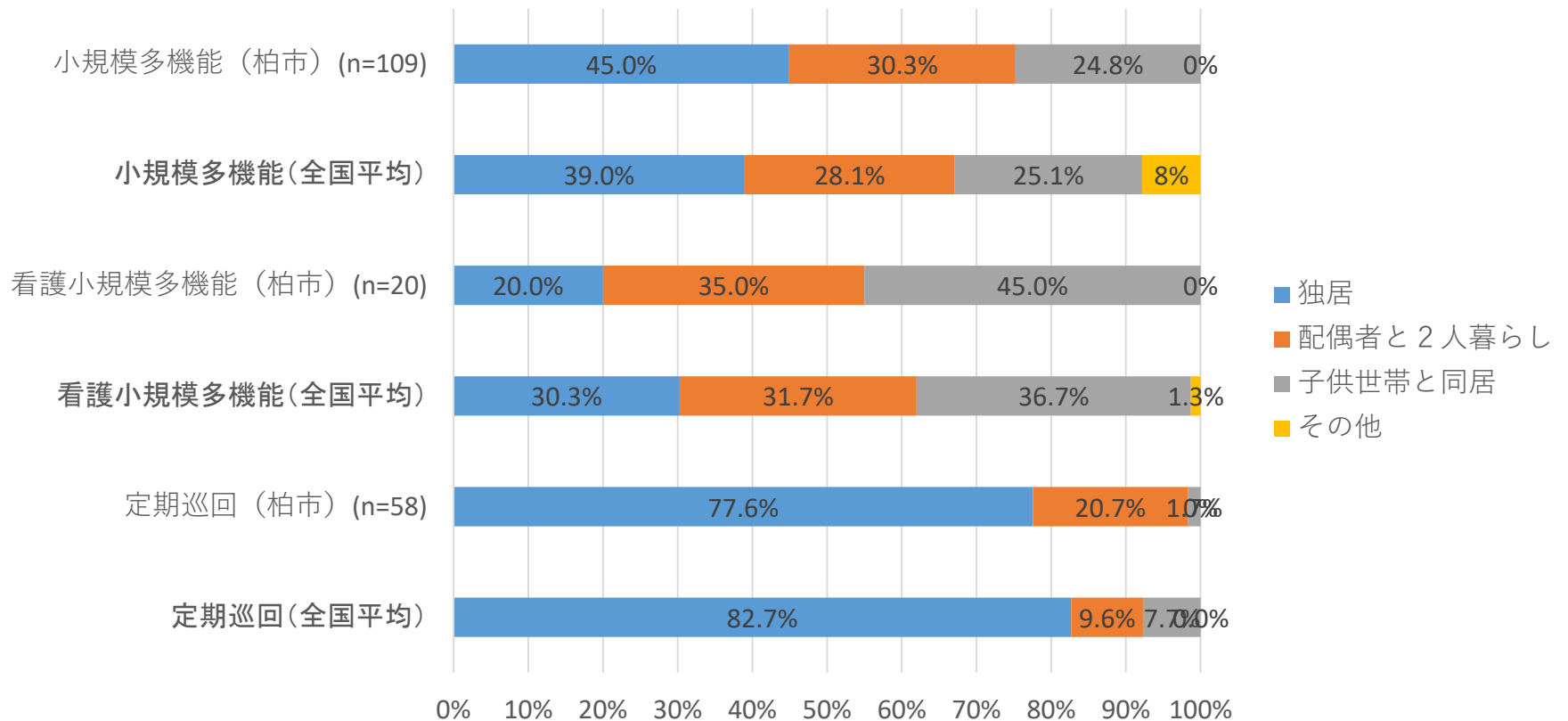
第7期柏市高齢者いきいきプラン21の期間中（2018年4月～2020年4月）の待機者数の推移は次のとおり。

単位:人

	2018年4月	2019年4月	2020年4月
特別養護老人ホーム （24/24事業所回答）	649	674	709
介護老人保健施設 （6/9事業所回答）	25	27	37
特定施設入居者生活介護 （7/10事業所回答）	8	8	9
グループホーム （22/27事業所回答）	45	49	55

スライド11「新規入所申込者数、退去者数」で見込んだとおり、特別養護老人ホームは増加、特定施設入居者生活介護は概ね変化なし、グループホームは微増となっている。
また、介護老人保健施設についても微増となっている。

利用者の世帯構成（在宅系）



- ・小規模多機能は独居が最も多く、次いで配偶者と2人暮らし、子供世帯と同居の順。バランスよく利用されている。
- ・看護小規模多機能は独居が最も少なく、子供世帯と同居が最も多い。
- ・定期巡回・随時対応可型訪問介護看護はおよそ8割の利用者が独居世帯。

出典：柏市データ = 事業者へのアンケート調査（2020年9月実施）

全国データ = 第179回社会保障審議会介護給費分科会資料

平成30年度老人保健健康増進等事業「看護小規模多機能型居宅介護および療養通所介護の特性に関する調査研究事業」報告書